

プログラム概要	鳥を見る・鳥と比べる・鳥になる		活動時間	活動人数	利用形態
			3～4時間	10グループ (1グループ7人まで)	約50人まで

■ 新学習指導要領との関連

小学校	理科	6年	生物と環境
中学校	理科	2分野 (2年)	動物の生活と種類
		2分野 (3年)	自然と人間 (自然と環境)



おすすめポイント

動物園にいる様々な動物の中でも比較的どの園でも飼育されている鳥を対象としたプログラムです。鳥の食べ物とくちばしの形態について、想像したり道具を使って体感したり、子どもたちが自ら考えながら、学ぶことができます。

■ プログラムのねらい

日常から見る機会の多い鳥に焦点を当て、外部形態に注目し、くちばしの部分観察や行動観察させることで、「気づき」を与える。

■ プログラムの内容

本プログラムでは、ワークシートなどで事前学習を行い、動物園においては観察のポイントを示したワークシートを用いて、数種の鳥類の観察を行う。くちばしの機能を模式化した道具を使い、えさや暮らし方と体の機能との関係を実感する。

■ 博物館の活用

- 事前学習用ワークシート (ダウンロード可能)
- 動物園での観察用ワークシート (ダウンロード可能)
- 12種の鳥の頭骨レプリカ標本 (貸し出し可能)
- 鳥のくちばし体験キット
- 双眼鏡を活用した動物園で飼育している様々な鳥の観察

■ 指導計画一例

指導書「新しい理科」(東京書籍) 参照

小学校理科6年理科「生き物のくらしとかんきょう」 配当授業時間：計7(8)時間

(※ピンク色の部分がプログラム活用箇所)

時数	学習活動 (配当時間)	児童・生徒の活動内容
	1 生き物のくらしとかんきょう	・生き物と空気、食べ物、水とのかかわりについて、これまでの学習をもとに考える。
第1次	2 空気中に酸素を出しているものは何か	・空気中に酸素を出しているものは何かを考え、話し合う。 ・植物が二酸化炭素を取り入れて酸素を出しているか、気体検知管を用いて調べる。
第2次	3 人や動物の食べ物の	・人の食べ物のもととは何かを考えて、その材料をたどってみる。また、いろいろな動物の食べ物はなにかを調べて、そのもとをたどってみる。 ・身近な鳥であるニワトリを観察し、体のつくりと食べ物や食べ方を調べる。 ・動物園にいるいろいろな種類の鳥を観察し、食べ物や環境について考える。
	4 もとはなにか (2時間)	
第3次	(6) 水は生き物にとって	・これまで学習したことをふり振り返りながら、生き物と水とのかかわりについて調べ、生き物にとって、水はどのようなものかを考える。 ・生き物と空気、食べ物、水とのかかわりについて調べたことを整理し、発表する。
	(7) どのようなものか	
	(8) (3時間)	

